

令和2年度 宮崎県立日南高等学校 学校評価

学校経営ビジョン	次年度に創立100周年を迎える県南きっての伝統校として、目指す学校像を ○ 知徳体に渡る力を確実に習得させ、進路目標を達成させる責任を果たす学校 ○ 一人ひとりの良さを認め合い、自信と誇りを持たせる個性溢れる学校 ○ 保護者や地域の信頼に応え、学校の説明責任をしっかりと果たす開かれた学校			学校関係者評価のポイント ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか ・自己評価の結果は指標等を基にした妥当なものであるか ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか ※ 自己評価、学校関係者評価とも、1～4の4段階評価とする 4:期待以上 3:ほぼ期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要する
本年度の重点目標	1 学習指導の充実 ・授業力の向上 ・フレキシブルタイムにおける個別指導の充実 ・「フェニックスナビ」の有効な活用 ・小論文指導の充実 ・資格取得指導の徹底 ・図書館活動の充実推進 ・新学習指導要領の実施に向けての教育課程の編成 2 生徒支援の充実 ・基本的な生活習慣の確立 ・豊かな人間性と規範意識の醸成 ・部活動の充実強化 ・学校行事やボランティア活動等への自主的で積極的な参加 ・教育相談体制の充実 ・命を大切に教育の充実 ・人権教育の推進 3 進路支援の充実 ・大学入学選抜制度改定に合わせた進路指導の在り方の研究と実践 ・大学入学共通テストに向けた対策の研究 ・電子調査書への対応の研究 ・進路希望に応じたガイダンスの充実 ・「未来戦略課」の更なる発展と充実 4 信頼される学校作り ・家庭、中学校や地域との連携 ・広報活動の充実 ・地域人材や卒業生の活用 ・定員の確保 ・創立100周年記念事業準備と実施、同窓会との連携 ・適正な学校事務の運営と施設の修繕・整備			
重点目標	評価項目	取組(P)	自己評価(A) 方策・手立て(D)、結果の考察・分析及び改善策等(C)	学校関係者評価
1 学習指導の充実	①基礎学力の定着と学力向上	(1)「フェニックスナビ」の活用、学習相談会の実施を通して、個に応じたきめ細かな指導を実践し、基礎学力の定着を図る。 (2) 自主的に学ぶ姿勢を身につけることを目的とした個別指導の時間、フレキシブルタイム等の充実を図る。	○ 45分授業とFTについては昨年は議論もあったが、今年は各部、各学年で有効に活用できている。 ○ 手厚きめ細かな学習指導と自主的な学習を促す指導のバランスを考えFTを目指したい。 ○ 長期休業後の課題提出指導や期末考査前の学習特別指導など、有効に活用できている。 ○ 学習量調査などの統計資料結果をもっと活用し、学年や教科に還元したい。 ○ メモをとることや学習計画を立てることは、主体的な学習に繋がる。フェニックスナビの内容及び活用については、3年間を見通したものにしていなければならない。	3
	②教育課程と学校行事の研究	(1) 新学習指導要領改訂に合わせ、本校の特長を生かした教育課程の編成を行う。 (2) 生徒・職員が意欲的・主体的に取り組むことができる年間行事の策定を目指す。	○ 未来リサーチ委員会や教科代表者会で特色あるカリキュラムの検討を進めている。令和6年度大学入試共通テストの出題科目をにらみながら、戦略を練りたい。 ○ 中間地区には高校説明会の機会にエクセルショー一便りを持って行き、好評であった。 ○ 研究授業週間を機に、授業や教材、入試問題等についての議論が進んでいる。日常的なOJTを進めたい。	3
	③「朝の10分間読書」を通じて読書指導の円滑化をはかるとともに、生徒が各種書籍や資料を学習に生かしている能力の育成をはかる。	(1) 職員・放送部(委員会)と連携し、「朝の10分間読書」を円滑に行い、読書へのきっかけづくりとする。 (2) 図書館内配置を工夫し、来館と学習活動につながる雰囲気づくりを行い、貸出数及び読書量の増加や、蔵書の有効活用により大学入試・就職試験に対応できる実力の養成を図る。	○ 職員の共通認識として、放送自体は毎日流れるが、実態に応じて朝課外のある日は朝読書を実施、テスト1週間前からは中止という基準を設けた。昨年に引き続き、副担任だけでなく各クラスに所属する図書委員がメインで朝読書の運営を担うよう位置づけした。 ○ 読書推進期間やエクセルシア祭などで積極的に図書委員としてPOP展やミニ・ビブリアバトル、期末考査時の店頭購入など生徒の来室につながるような取り組みを行うと共に、SDGs関連の書籍の充実を心がけた。 ○ 各クラスによって実施できている所とそうでないところがある。生徒からは「なかなか呼びかけが難しい」という声もあるため、職員との連携した改善が必要。1年生時「当然のこと」として入学時から取り組む必要があるとともに、朝読書用の本の充実を今後考えなければならない。 ○ 一部の生徒は来室が頻繁だが、3年間全く来室しない(それに近い状態)の生徒もおり、全員が有効活用できているとは言いがたい。今後はLHRやETなどでも積極的に使ってもらえるよう、できるかぎり利用できる資料本を揃えていなければならない。	3.0
2 生徒支援の充実	①基本的な生活習慣の確立、および豊かな人間性と規範意識の醸成	(1) 生徒相互のあいさつの活発化と日常化を図るために、生徒会や部活動生を中心に朝のあいさつ運動に取り組む。 (2) 身だしなみの意識改善を図るために、授業等での常時指導を全職員で徹底するとともに、定期的な服装容儀指導を実施する。 (3) 生徒の個性を尊重し、人命尊重の精神を育成し、いじめのない環境を醸成するために、生徒一人ひとりに目を配り、居場所作りに努める。	○ 奨励部の部活動生を中心に、日常的に朝のあいさつ運動を行うとともに、職員による挨拶指導・風紀指導を行った。学期始めには全職員で校門指導を行い、挨拶だけでなく、登校状況や健康状態の把握にもなっている。全体的に挨拶はよくできている。教師と生徒との良好な人間関係作りの一助になっている。 ○ 複数の職員によって日常的に登校時の身だしなみについて指導しており、毎朝の静思前には起立して身だしなみを整える時間を設定している。各学期の始業日及び定期考査後に学年ごとに服装容儀指導を行うとともに、再指導を行った。また、校外においても理性を保ち規範意識の高揚を図るため、部活動後であっても必ず制服に着替えて下校するよう指導している。 ○ いじめ防止については、3年間で一貫した指導計画を立てており、学期に一度、人権教育学習を実施している。また、いじめアンケートに加えて、いじめセルフチェックを実施し、いじめ問題、善悪の判断や自分のとるべき行動等について語り、規範意識や人権意識の高揚を図った。	4
	②部活動の充実強化、および学校行事やボランティア等への自主的で積極的な参加	(1) 帰属意識を高めるとともに、生徒の自主性を育成するために、生徒主体の運営を促し、生徒会活動や各種委員会活動、部活動や学校行事等の活性化を図る。 (2) 勤労の尊さや相手の立場に立つて考えることの大切さを理解できる生徒、シティブライドを持った生徒を育成するために、ボランティア活動や地域行事への積極的な参加を促す。 (3) 部活動の意義を理解し、部活動で学んだことが日常生活や学校生活で生かせる生徒を育成するために、1年生全員の部活動加入を推奨し、文武両道を目指すとともに、奨励部を中核として部活動の活性化を図る。 (4) 情報端末(携帯電話など)の適切な使用について考えさせ、メールやSNSによる誹謗・中傷をはじめとする様々なトラブルを防ぐために、「日南高校 携帯電話利用五箇条」に基づいた指導を徹底する。	○ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ほとんどの学校行事が中止となったり、部活動では大会が中となったが、エクセルシア祭は十分な感染防止対策の中で、何とか無事に終えることができた。準備を通して、クラスの結団を図り、帰属意識を高めることができた。 ○ (4)について 県高P連の決議を受け、県立高校では足並みそろえ、スマホ等の校内持ち込みを容認する動きとなった。本校でも試行期間として2学期から持ち込みを許可しているが、緊急時以外の使用は禁止している。 ルールの見直しを行う際に、PTA役員に意見を求め、ながらスマホの防止策として、「放課後にピロティで」と時間と場所を限定して使用を許可することとした。おそらく他校にはないルールであると考えている。何もかも禁止にするのではなく、認められた中での正しい使い方を指導するようになった。	3.6
				4
・日南高校の学習指導の柱、特長である45分授業とFTについて昨年議論があったとある。それを踏まえて活用が出来たことは大きな成果である。PDCAサイクルが機能している。 ・新学習指導要領の改訂に合わせて特色あるカリキュラムの検討がなされているが、どのような学校像を描こうとしているのか。未来リサーチ委員会の役割は大きい。日南高校の独創性(カラー)を打ち出してほしい。 ・朝読書活動や図書館利用については、1年生を対象に生徒達の出身小・中学校での取組を探ってみてはどうか。 ・コロナ禍で生徒は自宅待機を余儀なくされました。自宅学習力が問われると感じたがどうだったか。また、「面授」の大切さを確認できたのではないかと。 ・書籍の活用について、図書室が遠いことが、ひとつの原因になっていないか？以前訪問した時には、興味ある本がたくさんあったように思う。貸出平均冊数は、どれくらいあるのだろうか？返す一借りのローテーションを崩さないことが読み続けることだと思ふ。 ・「日常的なOJTを進めたい」とあるが、どのように進められるのか、これまでと違ったような何か具体案を示すべきでは。 ・主体的な学習は、今後さらに大切になってくると思われる。学習計画を立て、それを実践し、チェックするまでの一連の機会(時間)を組んではどうか。				

重点目標	評価項目	取組(P)	自己評価(A)		学校関係者評価	
			方策・手立て(D)、結果の考察・分析及び改善策等(C)			
3 進路支援の充実	①生徒が有する多くの要求に応えるための企画や指導方法の研究と実践	(1) 3年生は各コースの特性を生かした進路支援を実践し、前年を上回る進路達成を実現する。 (2) 校内・校外模試については、結果の迅速な分析を行い、学力向上を目指すとともに、早期の進路決定と目標実現のための支援を強化する。また、種々の資料やデータを有効に活用し、進路支援に生かす。 (3) 分野別教養講座・オープンキャンパス・看護体験・ボランティアへの参加を通じて生徒の経験値を高めて、ポートフォリオ等の活動の記録やその保管方法を工夫する。 (4) 推薦入試・一般入試への対応として、6月以降、小論文・面接指導を職員全体で行う。 (5) 1・2年生の学力検討会、3年生の進路検討会の時間を確保し、学力向上に向けたタイムリーな方策を打ち出す。 (6) 生徒だけでなく家庭に対しても、適切な進路情報を継続的に提供する。	○ 将来像を具体的に描くことができる取り組みの実施を目的として、学年と連携して、企画を精選しての実施を目指した。 ○ 公的機関や外部業者との連携を積極的にとることで、探究科学コース、普通科全体を含めキャリア教育の充実を図った。 ○ 学年独自のFTの活用により、習熟度別の指導が多岐にわたって行われたことは、評価に値すると思われる。 ○ コロナウイルスの蔓延による対策として、急遽、年度途中より、放課後進路講座を実施した。年間19回実施できたことは幸運だったと思う。上級学校の協力には深く感謝している。生徒の進路意識の醸成にはつながったと思われる。 ○ 年度当初に全ての計画立てをするのが難しい。外部との調整が必要な点が多いため、行事との調整を細かく図りたい。 ○ 就職希望者が減少傾向にあり、縁故就職の2名を除いて、今年度は一般企業就職者はいなかった。しかし、コロナウイルスの影響を受けて、多くの企業が新規採用計画を見直す状況が見られた。次年度は早くから、特にエリアコーディネーターとの連絡を取り合い、就職対策を充実させる必要がある。 ○ 「分野別教養講座」は、コロナウイルスの影響を受けて中止となったが、次年度も実施予定ではある。次年度は、放課後進路講座を補完的に並行して行い、生徒の学びの機会の確保に努めたい。 ○ 国公立大学のみならず、各種上級学校との接点をできるだけ早い時期から増やしたい。	4	3.2	・普通科の使命の一つは、生徒一人一人の進路ニーズを的確に捉え、寄り添った指導により希望大学等へ送り出すことではないか。今年度の「①生徒が有する多くの要求に応える～」項目の自己評価(A)の評価が高いことは大変喜ばしく思う。 ・普通科再編(案)の提示、大学入学共通テストの導入、ICT教育など学校を取り巻く状況の変化は、学校独自のカリキュラムを構築しやすくなるはずで、先生方の学校づくりに期待する。 ・ZOOMの活用、WEB面接等に対する研修実施は早急に必要だ。 ・ZOOMの活用やWEB面接になれるには、時間と研修が必要でしょうが、携帯電話を容認したことで機器をうまく活用できる環境下になり良い影響をもたらすと思う。 ・コロナ禍の影響により、ZOOMの活用やWEB面接等が急速に普及したと思います。生徒指導や授業方法に遅れがないよう早急な対応をお願いしたい。 ・評価項目「①」の取組(5)に「学力向上に向けたタイムリーな方策を打ち出す」とあるが、具体的な取組について明確にすべきだ。 ・はじめての共通テスト、コロナ感染拡大など見えない部分が多く、進路指導は難しかったと思う。その中で工夫や対応の経験が今後も活かして欲しい。
	②進路支援体制の構築とキャリア教育の推進および計画的実施	(1) コースや類型に対応した、3年間を見通した進路支援体制を構築する。 (2) キャリア教育について、キャリア教育推進委員会を中心とした各校務分掌や教科との連携を密にし、より体系的・組織的に計画、実践する。また、「日南高校未来戦略課」の更なる発展と充実に努める。 (3) 「大学入学共通テスト」・「電子調査書」・「ガイダンスの充実」に対する対策を研究して、学校全体での共通理解を深める。	○ キャリア教育に関しては、大学・短大・専門学校と連携して、出張講義・出前授業等の充実を図った。 ○ 学年ごとの、外部業者と連携した進路相談会を企画した。 ○ オープンキャンパス等への積極的参加を促すため、ミライム等を活用して、定期的な進路情報提供に努めた。 ○ 日南市の教育機関派遣事業のみならず、できるだけ外部との学習面での交流を図る場を設けて、生徒の学習意欲に喚起に努めた。 ○ 大学入学共通テスト初年度ということもあり、先の見えない不安があったが、初のテスト実施により、傾向が分かったことは大きな意味がある。各教科毎の分析と今後の対策を促したい。 ○ 対生徒指導能力の向上につながるように、入試の分析能力だけでなく、ZOOMの活用方法など、WEB面接等に対しての、職員の指導力向上につながる研修会の実施を図るべきである。	3		
	③学力向上を目的とした個別指導の実施	(1) 朝課外と夕課外の実施方法を検証し、より効果的なものとする。 (2) 早朝・放課後の時間やFTを活用し、各学年において個に応じた指導を実践する。 (3) 土曜講座や長期休業中の課外の在り方を検証し、さらなる工夫・改善を行い、進路実現に向けての学力の定着を目指す。 (4) 課題テストの事前・事後指導の在り方や、評価の仕方について検証し、有効な活用法を策定する。	○ コロナウイルスの影響が大きく、多くの課外と土曜講座が中止となった。影響は今後も続くことは間違いないため、各教科において、日頃の学習指導方法を吟味して、授業方法や課題の配布方法などを再考するべきである。 ○ 早朝や放課後の時間、またFTの時間の活用は、各教科担任の努力と意欲もあり、学習指導の場として充実しつつある。但し、取り組み状況を整理する必要がある。 ○ 水曜日の7時間目を3年生の面接・小論文対策指導にあてる形式に変更して5年目となったが、開始時期等の再検討が必要である。推薦入試結果から判断すると、更に早期に指導を開始するべきである。	3		
4 信頼される学校作り	①地域社会との良好な関係の形成	(1) 高校説明会・オープンスクール・教育課程説明会を活用して地域社会に情報を発信し、志望者の増加を図る。 (2) 学校の取り組みを広く紹介し、地域の学校としての理解と協力を得られるよう学校案内パンフレット・学校紹介ポスター・HPページ等の充実を図る。 (3) 各種行事・式典・入試業務等を適切・確実に実施することで、地域社会の信頼と協力を得られる学校作りに貢献する。	○ オープンスクールでは生徒ボランティアをベースに高1・高3の授業参観や座談会などを企画し、好評であった。 (オープンスクール参加者数：R01 180名 / R02 198名) ※日南振徳高と同日実施 ○ 高校説明会はコロナ感染症の影響で縮小実施の中学校もあったが、中学校のニーズに合わせて実施した。串間中学校にはパワーポイント資料提供によるものと学校訪問の2回を実施することができた。 ○ エクセルショー便りは内容を充実させ、日南市の各世帯に配付した。 ○ 学校HPへの注目は高まっている。コンテンツの充実と情報の更新に努めたい。 ○ 探究科学コースの特長・魅力作りとPRの仕方について研究する一方で、3年総合コースへの特色についても明確にしたい。	3	3.4	・生徒数の定員割れは、心が痛みます。市外や私立高校への流動化を防ぐ手立てをしっかりと講じて欲しい。 ・「選ばれる学校」に繋がっていくことを信じて、中2、中3とその保護者に直接的な機会を設け意識改革を促すあらゆる手立てを講じてもらいたい。 ・総合コースの魅力や特長をさらに研究し、発信していただきたい。 ・アイデアを形にされている様子頼もしい限りです。生徒ボランティア等オープンスクールの好評が成果に繋がっている。エクセルショー便りは、毎回楽しみにしている。推薦合格などは、リアルタイム掲載すると新鮮な感動があると思う。宮日新聞に100周年記事が多々あり、地域の方々に理解してもらえる一番身近なアピール方法だと気付くと同時に、他の模範となる生徒諸君を誇り高く思った。 ・エクセルショー便りを各世帯に配布したことは、日南高校を広く紹介し、情報発信する上でとても良いと思う。今後も、定期的な継続した取組をお願いしたい。 ・コロナ禍の影響によりすべての行事、様々な取組がよても大変な、苦慮された年だったと思います。そのような状況の中での取組、対応は高く評価されるものだと思う。 ・コロナ禍での計画を遂行していくには厳しいものがあつたのではないか。令和3年度、創立100周年記念式典が盛大に開催できませんよう期待する。 ・コロナ感染拡大で、行事やイベントが難しかったが、創立100周年事業など「実施できる最大限の内容」できていたと思う。 ・コロナ禍の先が見えない状況の中での100周年記念式典の準備と開催の判断には大変なご苦労があつたと思う。参加できなかったのは残念だったが、生徒たちには大変好評で感動したと聞いた。
	②学校安全体制の確立	(1) 生徒・職員の命を守るために、危機管理マニュアル・学校安全計画の策定、学校安全研修・避難訓練の実施、事故・災害時対策(組織整備・備蓄品等)に取り組み、安心・安全な学校を目指す。 (2) 地域及び関係機関と連携して効果的な避難訓練及び研修を実施し、地震・火災等の緊急時に迅速・適切に行動できる集団の形成を図る。	○ 「新型コロナウイルス感染症」の感染拡大防止のために、毎日の検温状況をフェニックナビへ記入させ、生徒の健康状態の把握に努めた。放送部と連携し「手洗い・うがいの励行」「換気の徹底」「昼食時における注意事項」などアナウンスによる注意喚起に努めた。 ○ 全職員の協力の下、朝の登校指導を実施し、「マスク着用の徹底」及び「検温状況や健康状態」の把握に努めた。 ○ 日南市消防本部の指導助言の下、体育的行事(エクセルシア祭など)における「新型コロナウイルス感染症への感染防止をふまえた応急手当ガイドライン」を作成し、全職員で共通理解を図り、対応することができた。 ○ 年2回(4月:火災、10月:地震・風水害)の避難訓練については、4月に予定していた火災を想定した避難訓練は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の観点から規模を縮小し、1年生のみでの実施となった。また、10月に予定していた地震・風水害を想定した避難訓練については、例年、近隣の幼稚園・自治会と連携し、「共助」の観点で実施しているが、今回は本校独自での実施となった。	3		
	③創立100周年記念事業	(1) 創立100周年(2020年度)の準備を黒潮同窓会と連携して進める。	○ 令和2年度 百周年記念式典を2020年11月7日に実施した。コロナウイルス感染予防の観点から、来賓者を限定し、規模を縮小して開催した。講演を本校OBの坂元誠一氏にお願いし、氏はサプライズコンサートも含めて講演し、コロナによって様々な行事が中止された生徒に励ましと希望を与え、大変好評であった。生徒は「100年の歩み」の視聴によって、スローガンとして掲げられた「百年の伝統を今ここに そして未来へ」を実感する本校の長い歴史と培われてきた伝統を認識する節目となった。また、記念事業としてITC機器が設置され、授業の充実に大いに貢献した。来年度にあらためて盛大に令和3年度100周年式典を開催すると決したので、成功に向けて準備を進める。	3		